

## #03 「アンコンシャス・バイアス」ってなんだろう

皆さんはアンコンシャス・バイアスをご存じでしょうか？「無意識の偏見」、「無意識の思い込み」などと表現されています。社会全体において、男女共同参画の取組み、ジェンダー平等が進展しない要因の1つとして、このアンコンシャス・バイアスが存在しています。

今回は、高山市SDGsオリジナルキャラクター「カラレオ」とその分身がアンコンシャス・バイアスを解説してくれます。今回も皆さんと一緒に考えて行きましょう。

**Q1** どうして今、アンコンシャス・バイアスが注目されているのでしょうか？



今日の社会や組織は、大きな変化の時期を迎えています。価値観やニーズが多様化する中で、労働力人口の減少、働き方改革なども背景に国籍、年齢、性別や雇用形態を問わず、多様な人たちがお互いを認め合う社会や組織をつくっていくことが求められています。

もはや多様な価値観を尊重できない社会や組織では、新たな発想が生まれにくく、イノベーションも起きなくなってしまうからです。

**Q2** アンコンシャス・バイアスって具体的にはどういった事例がありますか？

アンコンシャス・バイアスの具体例では、

- ・血液型で相手の性格を想像する
  - ・親が単身赴任中と聞くと、まず「父親」を思い浮かべる
  - ・男性から育児や介護休暇を打診されると「奥さんは？」と思ってしまう
  - ・子育て中の女性に転職を打診しないほうがよいと考える
- など実は日常的に様々あります。



**Q3** アンコンシャス・バイアスって問題なのでしょうか？



アンコンシャス・バイアスは、誰もが持っているものです。これまでの経験などから培われたきたもので、良い、悪いで捉えるものではありません。

ただ、アンコンシャス・バイアスに気づかずにいると、知らないうちに相手を傷つけたり、キャリアに影響を及ぼしたり、自分自身の可能性を閉ざしてしまふ恐れがあります。

一見わかりづらい部分もありますが、放置しておくことができない課題です。

アンコンシャス・バイアスの例や対処法はいくつもあります。内閣府ではアンコンシャス・バイアス解消に向けた普及啓発動画を作成していますので、こちらをご覧ください。



Q4 どうやって対処したらいいですか？

対処法の1つをご紹介します。それは「決めつけない、押し付けない」です。アンコンシャス・バイアスから生まれる言動には、「普通なら〇〇だ」、「こうあるべきだ」といった決めつけや押し付けが挙げられます。

例えば「子育て中の女性は、責任の重い仕事は無理だろう」、「細かい気配りが必要な仕事は男性には無理だろう」といったように自分の決めつけや押し付けに気づいたら「これは私のアンコンシャス・バイアスかも？」と振り返ってみてください。



Q5 アンコンシャス・バイアスと向き合うポイントを教えてください。

これまでの経験や見聞きしてきたことは貴重な財産であり否定されるものではありません。ただし、一方的な考え方が悪影響を及ぼすこともあるという意識が必要です。大切なことはその時、その時に問い直すことです。

「実は気づいていないのは自分だけで、周りは気づいているかもしれない」、「これまでのやり方では悪影響がでるかもしれない」といったように今に思いを馳せるなどアンコンシャス・バイアスを一人一人が意識することが重要です。

**アンコンシャス・バイアスへの気づきは、一人一人が個性と能力を発揮できる活躍社会の実現に向けた第1歩**となります。

